

# 学研都市でロボット塾

ロボットの研究開発で知られる関西学研都市の精華町で、子どもたちに科学技術の魅力を伝えようと、町内在住の元技術者が「けいはんなジュニアロボットクラブ」を

発足した。来年1月から講習会を開き、国際大会の出場を目指して技術や知識を伸ばす。「学研都市の地の利も生かし、世界水準の研究者を育てたい」と意気込む。



自作のロボットを前に「将来の技術者を育てたい」と語る伊藤さん  
(精華町役場)

クラブは、パナソニックのグループ企業の元技術者で、会長の伊藤潤一さん(65)＝精華町光台＝が発案。大阪市の電子機器製造会社の経営者など大阪電気通信大学の卒業生ら5人で立ち上げた。

伊藤さんは昨年からの毎月1回、大阪府寝屋川市で開かれるロボット工作教室で小中学生を指導す

## 精華の元技術者ら、来年開講

る。センサーやソフトウェアを組み合わせて動くロボットを「科学技術を学ぶには最適の教材」とし、精華町での教室開設を企画。提案を受けた町も「学研都市らしい科学教育につながる」と協力を応じた。

クラブは来年1～3月、初の入門コースを町内で計3回開催。今年11月に町内で開催予定の科学イベントに参加する地元の小中学生約20人に呼び掛け、自律型ロボットを動かす基礎知識を教える。

来年度からは町内外の小中高生を対象に参加者を募り、入門コースと上級の基本コースを開講。ボールや色を見分ける機能などを学んでもらう。

伊藤さんによると、常設のロボット講習会を府内で開くのは初めてという。

今後は、19歳以下が出場でき、サッカーやダンスの能力で競う全国大会の「ロボカップジュニアジャパン」や国際大会の「ロボカップ」への出場を目指す。今年のジュニアジャパンは兵庫県尼崎市で3月にあり、約180チームが出場した。

町内では、国際電気通信基礎技術研究所などがロボットの研究で世界的に知られる。伊藤さんは「講師に研究者を招く機会もつくり、子どもたちに刺激を与えたい」と夢を描く。

(吉岡宏)

# 地の利生かし研究者育て